

今回の登録美術品について

1 所有者：

下記①：個人

下記②：個人

2 登録日：平成30年3月27日

3 公開美術館（予定）：

下記①：東京国立博物館（東京都台東区）

下記②：東京国立博物館（東京都台東区）

※公開のスケジュールは同館において決定されます。

4 登録美術品の概要：

	登録 番号	美術品の名称	種類	制作時期	員数	備考
①	76	しほんたんさいこうざんせきようず 紙本淡彩江山夕陽図 しようちなどしゆうにそう 性智等十二僧ノ賛アリ	絵画	室町時代 (15世紀・14 37年頃)	1幅	重要文化財指定 (昭和25年8月29日)
②	77	しほんちやくしよくばいそうしざんけつ 紙本著色馬医草紙残闕	絵画	鎌倉時代 (13世紀)	1幅	重要文化財指定 (昭和25年8月29日)

【登録番号76】

作品名： 紙本淡彩江山夕陽図 性智等十二僧ノ賛アリ

員数：1幅

法量・形状等：紙本淡彩，掛幅装，寸法：130.3 × 30.2 cm

制作時期：室町時代(15世紀・1437年頃)

制作者：不明

説明：

本作品は、山水画に禅僧が漢詩を添えた詩画軸である。江山の隠棲の地を思わせる図様を濃淡の変化を生かした筆墨法で描いた作品で、図上に性智等の12名の禅僧による著賛がある。性智らは京都五山を代表する文人僧であり、洛中の文人僧を結集させた趣をもつ詩画軸となっている。性智の賛尾には、「七十九載大愚叟」とあることから、性智の没年から逆算して、本作は永享9年(1437)頃の制作と推定される。

近景には岩崖に立つ松樹を濃墨で表し、その奥に急峻な山を背にした水辺の寺や楼屋、橋を配す。中景には水際の家々や数艘の小舟、遠景には霞むなだらかな山並みを淡墨で表し、淡く施された彩色によって夕映えの趣となっている。絵は縦長の詩画軸の画面下部に限定された小画面ながら、広闊な眺望を描きつつ、近・中景には微視的な表現がとられ、人々の営みまでが表されている。

画面右下に「越溪周文」の朱文方印が捺され、周文筆との伝称もあるが、当該印は後捺と考えられている。

本作は制作時期が推定されるもので、室町時代に盛行した詩画軸の代表的な作品として絵画史上に価値が高く、重要文化財にも指定されている。

江山之隱為

慧林春育童子賦

路入江橋過碧灣人家

住在翠微閣暮帆乍

應無數那箇漁舟載我

還

七十八載大愚叟



江南勝蹟古來新今見斯圖一真
五竺烟雲山疊翠六朝風物水生春
青林歸處多瓦屋白鷺飛邊有釣輪
更識高僧行道地上台臺殿照金銀

金華老衲宗播



溪橋野店踰高低浦漱

烟紫望轉迷欲把此面求

藤縣匡廬南北浙東西

藤軒野釣依船



淺紅雲從油殘暉舟越以邊名
白渚竹裏篆禽吟芳立柳搖白
管刺下飛林石僧院燈三舍瓜
步人家水半蘇世極江山如畫
待芙蓉裳純菱荷衣

西湖風月主人禮士



澤國蒼茫外沙村寺講阿寺賦春
岸近僧堂暮鐘送積小池元氣幾傷
帶逐山嵐候佳絕地未轉未夏開

真隱夢 龍



屢訪芳隣興不孤輕舟短棹渡晴

湖近來亦亦欲歸隱那處江山似

此圖

番易法蘭



遠近源好壘軒農寺臨湖清碧奇華
若松若若江橋下款地應聽半夜鐘



近過賒橋遠沉舟看山佳處
便海留七年夜雨江湖夢
歸對面高如鷺遊泉南



江上峰巒碧玉流端心濃似
越山秋幽期何更重門寺欲
向沙邊買小舟

海南 隱袖明焉



山脚近照水邊金碧指提提

浦橋世事漸鬆啼上好西休

以便木簡棧

松園清補



山光水色映樓臺子似西明更
多梅身存岸岸皆春根清花夕
湧僧真訪如回

歐陽道人中衡



輝閣龍暈



(下部)



【登録番号77】

作品名： しほんちやくしよくばいそうしざんけつ 紙本著色馬医草紙残闕

員数： 1幅

法量・形状等： かけふくそう 紙本著色，掛幅装，寸法：26.2×22.7cm

制作時期： 鎌倉時代（13世紀）

制作者： 不明

説明：

本作品は、ばいそうしえまき馬医草紙絵巻の一部が切断されて伝来したものである。

馬医草紙は、古来有名な伝説的馬医の肖像とうまや厩につながれた名馬，巻末に薬草図を添えた絵巻で、中国から伝来した本に日本の馬医などを加えて伝写され，秘伝書としてそうてん相伝されたものである。

馬医草紙の完本とみられる作品は東京国立博物館に所蔵されているが，本作品はその第6図部分に該当する。

こざ莫産の上に立ち鼓を手にする白衣の女と，その傍らに座す少女を描いたもので，描線を主体として，淡く彩色が施されている。画面左隅には「大汝 奴婢 小女 小鳥」と短冊形に区画した中に墨書している。図様は完本の絵巻とほぼ同一であるが，描写は絵巻よりも精確で，ぶんえい図写年代は文永4年(1267)のおくがき奥書がある完本よりもやや遡ると考えられる。

現在東京国立博物館には，完本の他に第5図に該当するざんけつ残闕も所蔵されており(共に重要文化財)，当該作品が併せて同館において公開されることは，研究を深める上で意義が深い。

本作品は，馬を重んじる時代風潮を反映して相伝された馬医草紙の伝写関係を具体的に示すものであり，我が国文化史上，絵画史上に価値が高く，重要文化財にも指定されている。

(写真)

